

臨床研究の名称	抗 GM-CSF 抗体と TBLC を併用した肺胞蛋白症の診断的有用性の検討
研究責任者の所属・氏名	呼吸器内科 医師 林 潤
研究の概要	【目的】 肺胞蛋白症（PAP）は、肺胞腔内にサーファクタント様物質（脂質やタンパク質からなる界面活性剤）が異常に貯留する稀な疾患であり、その診断には気管支肺胞洗浄や経気管支的肺生検（transbronchial lung biopsy：TBLB）が多く用いられています。 近年、低侵襲で比較的広い組織量を採取可能な経気管支クライオ肺生検（transbronchial lung cryobiopsy：TBLC）が普及しており、間質性肺疾患などにおける有用性が報告されていますが、PAP の診断における有用性は十分に検討されていません。 本研究の目的は、臨床および画像所見から PAP が疑われ TBLC を実施した患者さんの情報を用いて、その病理学的診断能および安全性を後ろ向きに評価することです。さらに、抗 GM-CSF 抗体測定結果との併用による診断精度の向上の可能性を検討し、PAP 診断における TBLC の臨床的意義を明らかにすることを目的とします。 【対象患者】 当センターにて、2017 年 6 月から 2025 年 8 月までに臨床・画像所見から肺胞蛋白症が疑われ、その中で TBLC を施行した患者さん 【方法】 上記患者さんを対象に下記情報を収集し、氏名などの個人情報がわからないようにした上で検討します。 患者さんが最終的にどのような診断となったか、抗 GM-CSF 抗体が陽性か陰性か、TBLC 後の合併症にどのようなものがあつたかを分類し、TBLC の有用性について検討します。 【使用する情報】 年齢、性別、喫煙歴、身体所見、現病歴、既往歴、生活歴、血液検査（生化学、血算、KL-6、抗 GM-CSF 抗体）、病理組織レポート、HRCT 画像、MDD 結果、治療情報など 【情報使用の開始予定日】 2025 年 12 月開始予定
問い合わせ先	呼吸器内科 医師 林 潤、部長 馬場 智尚 〒236-0051 横浜市金沢区富岡東 6-16-1 神奈川県立循環器呼吸器病センター 電話番号 045-701-9581 （代表）

※ 研究に情報を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益を生じることはありません。上記の問い合わせ先までご連絡いただけましたら、その方の情報は本研究に利用しないようにいたします。

※ 問い合わせ先の担当者が不在の場合は、臨床研究室にお問い合わせください。